つれづれなるままに　第15号
令和元年12月24日（火）発行

校長　深谷　浩一

ボランティアって何だろう！(1)

～ある外国語指導助手（ALT）の挑戦～

平成８年８月，本校にトッド・フラリーという，アメリカはコロラド州出身の外国語指導助手（ALT)が赴任しました。その前年の４月に赴任し，英語教師として２年生の国際コースを担任していた私は，「ALTの世話係」として，授業のことやアパートのことなど生活一般にわたって面倒をみる仕事を担当することになりました。

当時の中央高校には「国際コース」があって，特に英語の専門科目が多く，私のほとんどの授業はトッド先生とのTT（ティーム・ティーチング）となったのです。たとえば，３年生を対象とした英語の専門科目「外国事情」や「英語表現」などが選択科目としてあって，決まった教科書がないので，雑誌やその日の英字新聞の記事から教材を作成し授業を行っていたことを憶えています。

トッド先生は，ユーモアがあり，笑いのある楽しい授業を心掛けていましたが，やる気や意欲のない生徒に対しては，職員室に呼び出しては英語で怒鳴りつけるような厳しい面も持ち合わせていました。「遅刻した生徒をどうして授業の途中で教室に入れるのか。」「生徒のレベルはアメリカの小学生以下だ。先生方はどうしてもっと厳しく指導しないのだ！」と先生方に対しても厳しい姿勢で対峙したのです。昔，日本が太平洋戦争で敗北したとき，日本統治の責任者として来日したGHQのマッカーサー元帥は，「日本人の知的レベルはアメリカの12歳の子供と一緒だ。」と言い放ちましたが，トッド先生もまさにこの勢いだったのです。誰に対してもこんな調子なので，同僚の先生方からも多少顰蹙（ひんしゅく）をかったりもしましたが，彼の言い分にはもっともなことも多く，「他人がどう思おうと自分が信じた道を突き進む」といった，きわめて「アメリカ的な」ALTでした。

「我々ALTは，国際運転免許をもっているのに，どうして車による出勤や出張が認められないのか。」と訴え，私を困らせたこともありました。「規則だから仕方がない。」というばかりの私では，埒（らち）があかないと考えたのか，トッド先生は，自分の権利を認めさせるために，単身県庁に直談判に行ったこともありました。トッド先生のこうした努力の甲斐あって，現在では，ALTの先生方が自家用車を使うことについての規制は随分緩やかになりました。

「環境保全に関心のある人，この指止まれ！」

～「大洗海岸クリーンアップ作戦」始まる！～

こんな行動的で自己主張の強いトッド先生がある時，仲間とともに大洗サンビーチの空き缶拾いのボランティア活動（彼はそれを「大洗海岸クリーンアップ作戦」と名付けました。）を計画しました。当時，県内で勤務していた同じ立場のALTに声をかけ，そのALTたちが自分の職場の生徒たちに声をかけ，総勢400名のALTとそれぞれの学校の生徒たちが，平成９年4月29日の「地球の日」に大洗海岸に集結することになったのです。本校でALTを担当していた私としても，休日とはいえ，生徒たちだけで参加させるわけにもいかず，中央高校の10名程度の生徒たちとともに参加することになったのです。

しかし，彼はどうして、そんな行動を思い立ったのでしょうか。彼を空き缶拾いに駆り立てたものは何だったのでしょうか。私はそのことに大いに興味をもちました。そこで，その思いを彼の口から語ってもらうことにしたのです。それが「地球の日－大洗にて」（原題は“EARTH DAY-OARAI”。）です。その内容は次号で紹介します。（つづく）